3. 関係者証言によるかわまちづくりのプロセスに関する考察

まちづくり・防災グループ
研究員　阿部　充（あべみつる）

本日の話題

4つのかわまちづくり地区の
キーパーソンへのインタビュー結果

1. 背景・きっかけ

2. 地域の合意形成、人とのつながり

3. 民間利活用、河川空間利活用

対象箇所

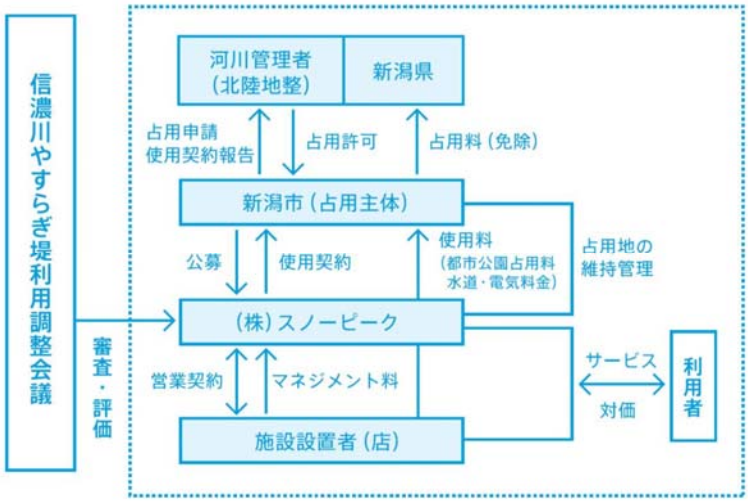
インタビュー調査手法

対象者（新潟）

河川管理者（国）

新潟市職員：Dさん

利用調整協議会：
Bさん（NPO法人）



（株）スノーピーク
Cさん

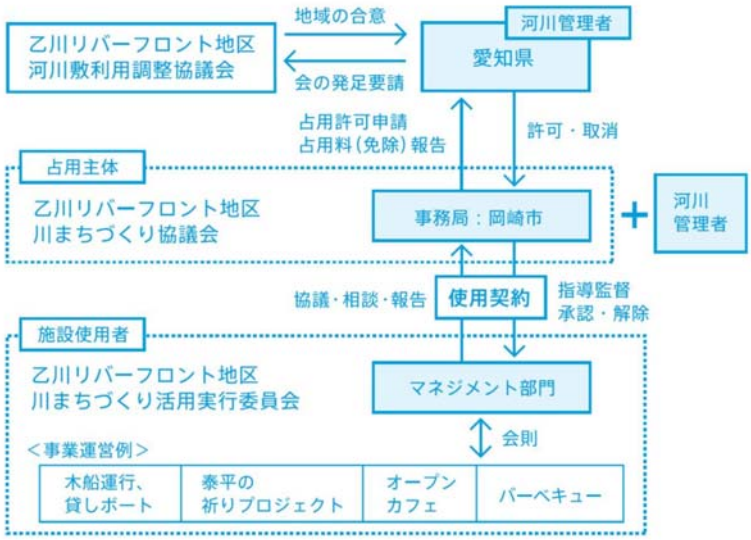
サンセットカフェ
Aさん

出典「MIZBERING　SOUDANBOOK」（ミズベリング・プロジェクト事務局、2018）

大学教授：E先生

対象者（岡崎）

大学教授：I先生



河川管理者
（県）

活用実行委員会
Fさん（NPO法人）

出典「MIZBERING　SOUDANBOOK」（ミズベリング・プロジェクト事務局、2018）

岡崎市職員

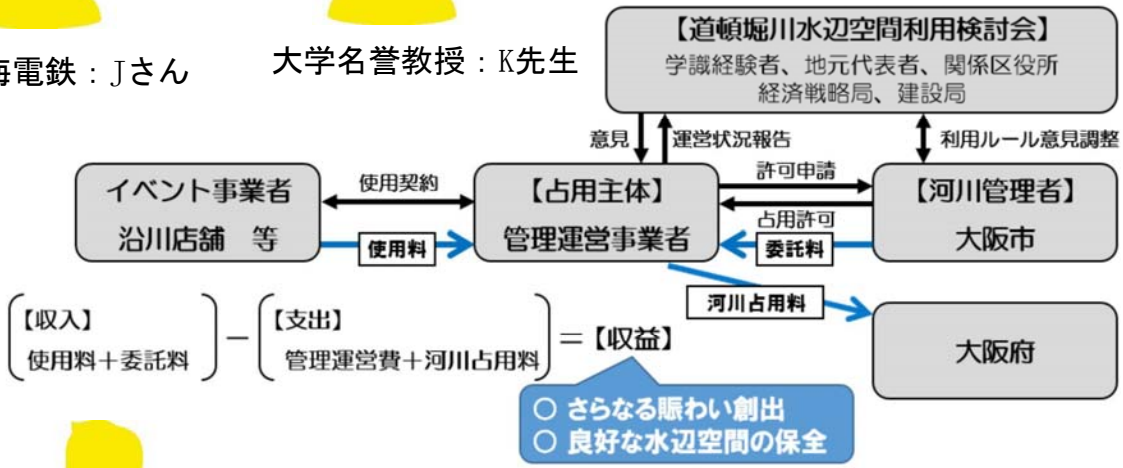
舟運運事業者：Gさん

泰平の祈りプロジェクト
Hさん（岡崎青年会議所）

対象者（大阪）

南海電鉄：Jさん

大学名誉教授：K先生

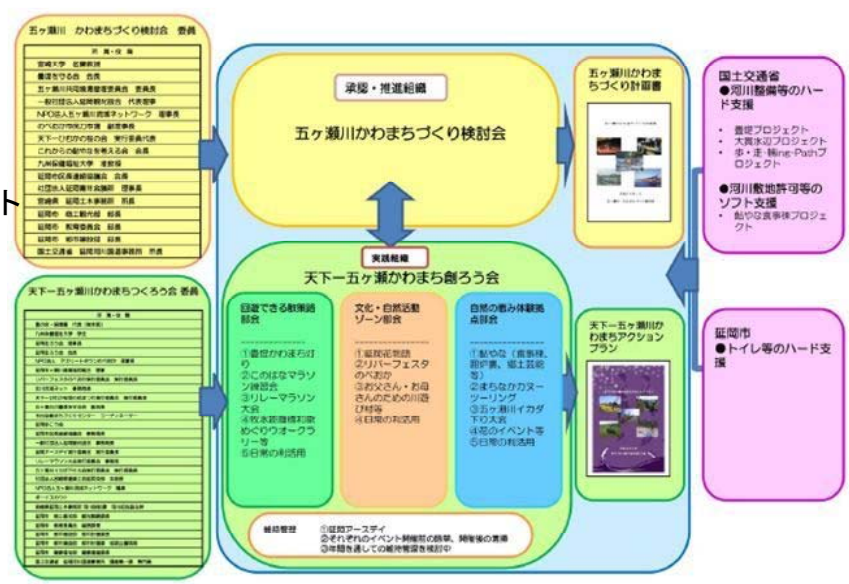


出典「道頓堀川水辺空間利用にかかる管理運営事業者募集要項　付属資料3」（大阪市、2018）

大阪市職員：Lさん

対象者（延岡）

ボーイスカウト
Mさん



河川管理者
（国）

地元区長
Nさん

延岡市職員

出典「五ヶ瀬川かわまちづくり　組織図」（延岡河川国道事務所ホームページ、2018）

イベント実行委員
Oさん

NPO法人：Pさん

大学名誉教授：R先生

コンサルタント会社
Qさん

1. 背景・きっかけ

2. 地域の合意形成、人とのつながり

3. 民間利活用、河川空間利活用

信濃川やすらぎ堤かわまちづくり

2015年　ミズベリング会議開催
　　研究会立上げ
2016年～　ミズベリング信濃川やすらぎ堤
　　（オープンカフェやビアガーデンなど）

信濃川やすらぎ堤かわまちづくり

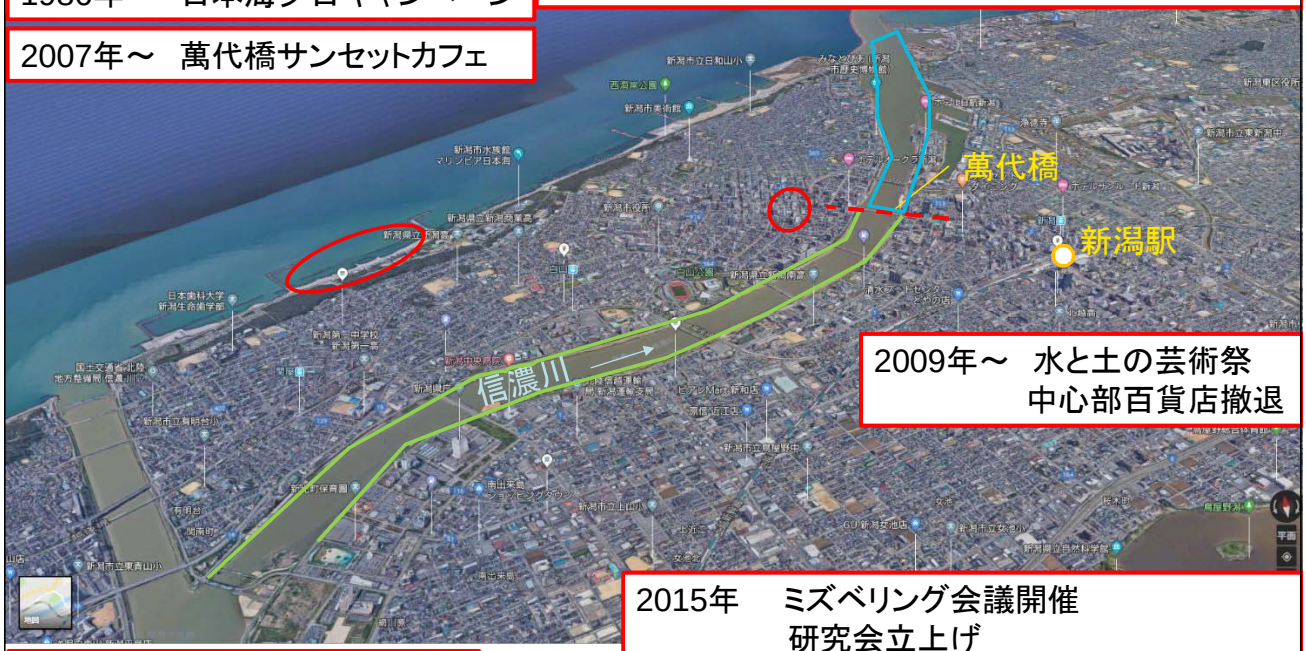
1985年　上越新幹線開通

2004年　萬代橋重要文化財指定
道路局社会実験「みちと水辺のオープンカフェ」

1986年～　日本海夕日キャンペーン

2006年～　新潟みなと水遊記（水上タクシー、広場等）

2007年～　萬代橋サンセットカフェ



2009年～　水と土の芸術祭
中心部百貨店撤退

1987年～　やすらぎ堤整備開始

2015年　ミズベリング会議開催
研究会立上げ
2016年～　ミズベリング信濃川やすらぎ堤
（オープンカフェやビアガーデンなど）

公益財団法人 リバーフロント研究所

背景・きっかけ（新潟）

サンセットカフェ
Aさん

大きなまちのPRをするということと、いかに新潟に人を呼ぶかということ。まちの真ん中に日本一の川があって、重要文化財がなおかつ現役の橋であるという、これはまちの財産だろう。あそこの空間というか、橋を挟んで両サイドが将来的には観光地になるのではないかなと、重要文化財になったときにそう思った。

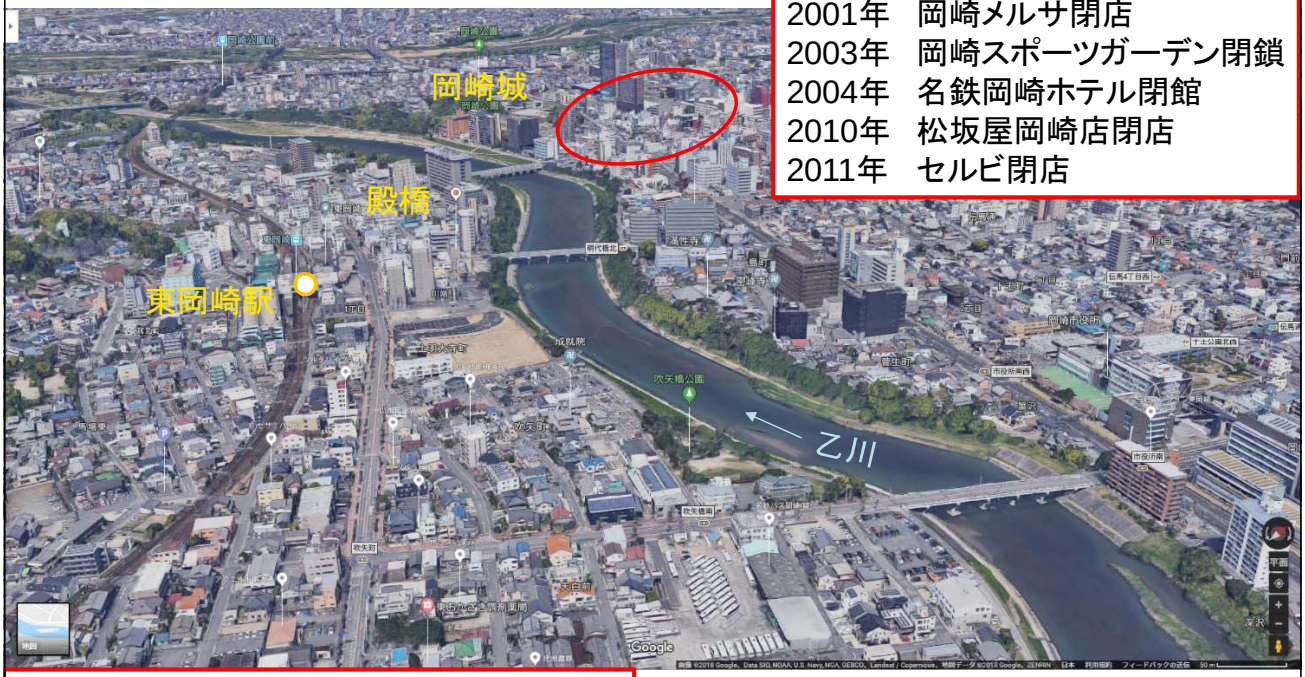
2000年から新潟大に赴任し、一番に注目したのが「やすらぎ堤」であった。ずっと芝生が続く開放的な空間はこれまで見たことがなかった。すごく良いと感じた。
一年くらい過ごしたが、いつもガラガラで誰も使っていないため、「なぜだろう？」と感じた。

大学教授：E先生

公益財団法人 リバーフロント研究所

乙川リバーフロント地区かわまちづくり

1998年　ジャスコ移転
2000年　イオンが郊外にオープン
2001年　岡崎メルサ閉店
2003年　岡崎スポーツガーデン閉鎖
2004年　名鉄岡崎ホテル閉館
2010年　松坂屋岡崎店閉店
2011年　セルビ閉店



2013年　乙川リバーフロント地区検討開始
2015年　かわまちづくり計画登録
2016年～　おとがワ！ンダーランド

背景・きっかけ（岡崎）

活用実行委員会
Fさん（NPO法人）

康生という岡崎の中心市街地が今衰退しているが、僕らの世代というのは、中心市街地がまだ元気だった時代の最後の世代で、中心市街地に対する思い入れとか愛着みたいなものを持っている世代としての共通認識として「康生を何とかしたいよね」という思いを持っている。

一番感じたのは「来年も私は船から桜見るためにもう一年頑張って生きるね」と言ってくれるおばあちゃんがいた。こういう人がおるなら、これ予算が切れたからといってやめてはまずいよなと思った。「これは意義がある」「金がどうのこうのの問題ではない」というのがあった。それから岡崎は歴史的にも正調五万石という歌があって、お城下まで船が着くと。だから、船はなければだめ、岡崎人の誇りとしてやらなければいけないでしょうというのがあった。

舟運運事業者
Gさん

大阪市かわまちづくり

1970年台後半　国際ウォーターフロント会議でサンアントニオ紹介
1990年　「大阪市総合計画21」で道頓堀川のシンボル構想
1995年～　道頓堀川水辺整備事業

2000年　商店街勉強会「15年間で通行量4割減」

2004年～　河川敷地占用許可準則の特例措置（社会実験）
2009年　かわまちづくり計画登録
2012年～　南海電鉄による管理運営事業

背景・きっかけ（大阪）

大学名誉教授
K先生

これはいつも大阪が抱える南北問題だった。キタの方がどんどん発展していき、ミナミが取り残されているという、そういう地元の非常に大きな危機感がかなり前からあった。
サンアントニオに状況が似ていることもあり、河川側にデッキを通すことで不動産価値が2倍になると、地元の方は敏感に反応した。大阪の商人といいますか、経済価値に関する敏感な動きが地元にあった。

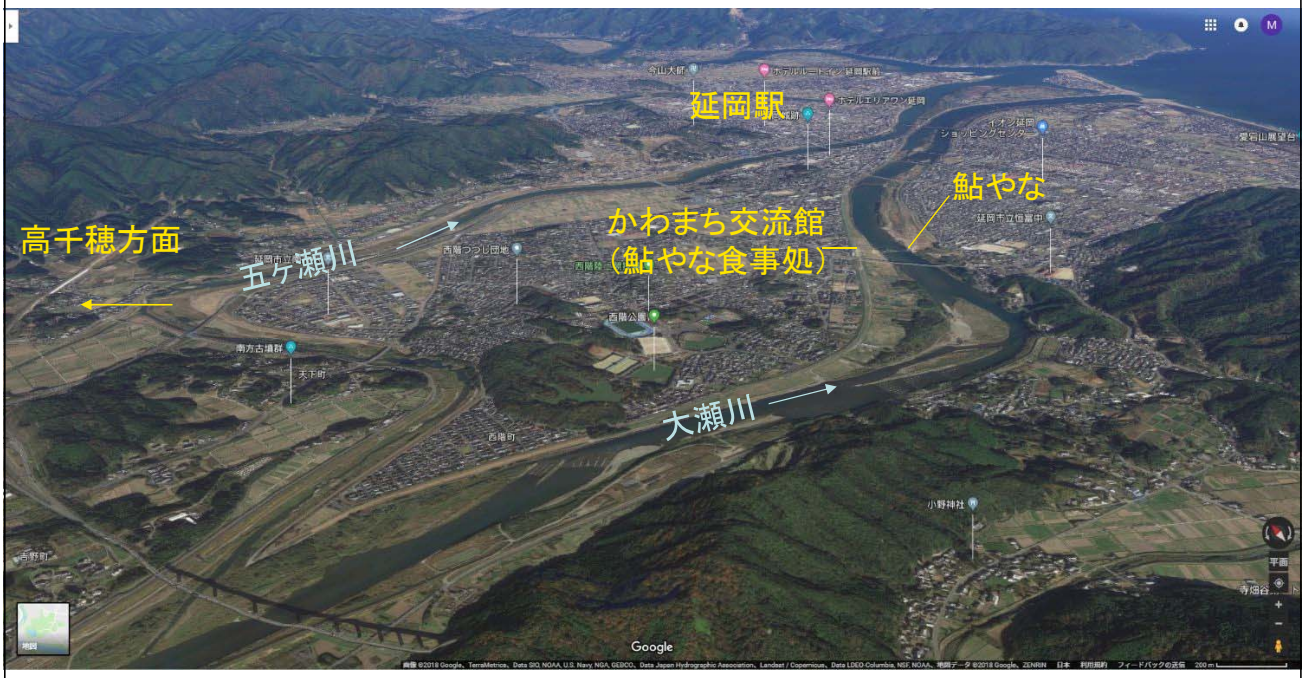
大阪市職員
Lさん

河川管理者としてもこれだけのポテンシャルを持ったところであるので、何とかここの維持管理を含めて民間事業者に任せることで、よりよくなっていくのではないかという思惑があったと。さらに言うと超都心部ですので、経済的な活動をすることで利益も上げて、それを維持管理に循環させて、自立した管理運営、維持管理をここで民間事業者としてやっていけるのではないかという思惑が当時からあった。

南海電鉄
Jさん

周辺に商店街のおじちゃん、おばちゃん、人のよさを含めたところもあり、老舗のいい割烹のお店もあるし、落語や芸能、文楽を初め文化、歴史があるという、それらがミナミの中にあるというのが魅力だと思っている。今までのハードをつくったまちづくりよりも、ソフトの地域連携のまちづくりをできるポジションに南海という会社があったらいいな、それを目指したいと思った。

五ヶ瀬川かわまちづくり



公益財団法人 リバーフロント研究所

背景・きっかけ（延岡）

地元の観光協会関係者と、事務所長でいろいろお話をされた中で、こんなことができる、あんなことができたらいいなという夢からスタートした。

延岡市職員

地域起こしという観点からすると、東九州道路が開通し、延岡が高千穂までただ通るだけのまちになってしまうことを心配したのではないか。水郷の延岡を推進することで、ストロー現象をどうにかして歯どめをかけたいと考えたと思う。

大学名誉教授
R先生

延岡には、いっぱいグループとか団体みたいなのがある。何かの時にちょっと声かけたらすぐ300とか500人とが、その日の朝に集まるという感じ。やることはハッキリしているので、みんなそれを聞いたりして、出来るところは加勢しようか、ということで集まってくれる。

地元区長
Nさん

延岡は周辺に比べて文化度が高く、環境に対する意識もものすごく高い。計画書づくりを終えた段階で、年とったばかりの集団ではとてもではないから、やっぱり実行部隊が要るよね、若い人が要るよねと、若者の組織を考えていった。実践部隊はメンバー数が多く行動力のある方ばかりで、いろいろ検討しながらやっているので、一人当たりの負担がある程度低減・分散されるのではないか。

大学名誉教授
R先生

公益財団法人 リバーフロント研究所

背景・きっかけ（延岡）

年	出来事	イベント・活動 五ヶ瀬川	イベント・活動 まちづくり	主な関連組織
江戸時代		●鮎やな		
1960				◆日本ボーイスカウト宮崎連盟　北部地区協議会
1974				◆延岡走ろう会
1975		●五ヶ瀬川イカダ下り大会		
1976			■まつりのべおか	
1994				◆延岡アースデイ実行委員会
			■延岡アースデイ	
		●リバーフェスタのべおか		
1997			■天下一薪能	
2000				◆延岡歩こう会
2001				◆NPO法人アスリートタウンのべおか
2002				◆NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク
2003				
2004				◆五ヶ瀬川の畳堤を守る会
2005				
2006				
2007				
2008				
2009				◆天下一ひむか桜の会
		●「天下一ひむか桜の会」による桜の植樹		
2010		●天下一ひむか桜 菜の花まつり		◆のべおか感動体験案内人連絡協議会
2011	水質現況ランキング全国1位			
2012				◆NPO法人ひむか感動体験ワールド
2013	「五ヶ瀬川かわまちづくり計画」登録			◆五ヶ瀬川かわまちづくり検討会
		●畳堤かわまち灯り		◆天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会
2014		●延岡花物語～このはなウォーク～、このはなマラソン練習会		
	東九州自動車道：延岡市～宮崎市開通	●まちなかカヌーツーリング		
		●草刈り・清掃開始		
		●お父さん・お母さんのための川遊び村		
	「天下一五ヶ瀬川かわまちアクションプラン」策定			
2015	東九州自動車道：延岡市～大分市開通 喜多方延岡道路：北方～蔵田間開通 「かわまち交流広場」完成			
2016				◆コノハナロード市民応援隊
	都市・地域再生等利用区域に指定			
		●散策会		
2017				

1. 背景・きっかけ

2. 地域の合意形成、人とのつながり

3. 民間利活用、河川空間利活用

地域の合意形成（新潟）

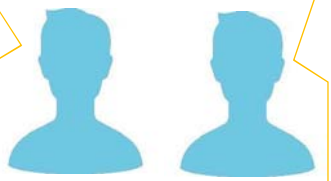
・ゴミが出る
・うるさい
・トイレを勝手にする

住民の反対 → 10年 → 住民の合意へ

・毎年やってくれるとマンション付加価値上がるかも
・来客を連れてこれる
・賑わいができてよい

・この経験があり、ミズベリングの際には大きな反対はなかった
・最終的には応援団

僕たちはまちのためにやっているのですと、それをずっと言い続けて、しまいには皆さん応援団になってくれた



サンセットカフェ Aさん　　新潟市職員 Dさん

要は、そのマンションの中のキーとなる人たちと知り合いになって飲みに来てもらったり、マンションの中で苦情を言う人いれば、その人になだめてもらっていたりというのはある。最終的には応援団になってもらった。チラシ入れたりとか、直接キーとなる人に遊びに行ったりとか、そんな感じの仲なので、「また今年もこの時期が来たね」みたいな感じで、今は仲がいい。

地域の合意形成（大阪）

また、地域ごと、エリアごとでいろいろな思惑があり、うまく調和とれるように、それぞれの立場を失わないような形で話をどうおさめていくか、というところはある。地元商店街の方々との懇談会は定期的にあるが、それ以外にもいろんな団体があるため、個別でお話させていただきながらという形になる。

南海電鉄

地元の人と全然めげずにどんどん入っていってお話し合いをしているという信頼関係があるというのが最大の肝。
担当者によって違う。
うれしいなと思うのは、「絶対この2人替えないでおいてよ」というのは地元の方から言われる。

人とのつながり（新潟）

Q：活動がうまく回っていくコツは？

結局相手は人なのですよ。やりとりする時というのは結局人対人とのやりとりの中で事が動いていくというのは変わらない。
必要以上のやりとりでしょうかね。要するにとにかく環境をつくるために動くというか、そんなことかな。フレームワークさえできてしまえば、あとはやるだけじゃないか。

利用調整協議会：Bさん（NPO法人）

新潟市職員 Dさん

Q：まちなか再生本部会議若手ワーキングのメンバーにはどのように声をかけた？

たしか行政のほうから一本釣りで地域の方でちょっとおもしろい活動をしている人だとかそういった方々を、放送局の社長であったり、美容師であったり、雑誌の編集者であったり、いろいろ声かけて集まって、好き勝手なことを言って必ず飲み会をすると。

人とのつながり（岡崎）

Q：こういった一体感というのはどうやって築き上げたものなのですか？

イベントやると仲間になる。同じつらい思いをするので。一緒になって球ふいたり、運んだり、水の中から拾ったりという仲間感覚が、発注者と受注者の関係を越してくるような部分がある。

気をつけているのは、本当に対等な立場で、立ち位置で一緒にやっていくというイメージでいこうと。成功させるにはどうしなければいけないかということを本当に一緒に考えて。

岡崎市職員

泰平の祈りプロジェクト Hさん（岡崎青年会議所）

舟運運事業者 Gさん

岡崎の場合、役所の人が現場見えているのがすごい。よその市というのは余りないですよね。

1. 背景・きっかけ

2. 地域の合意形成、人とのつながり

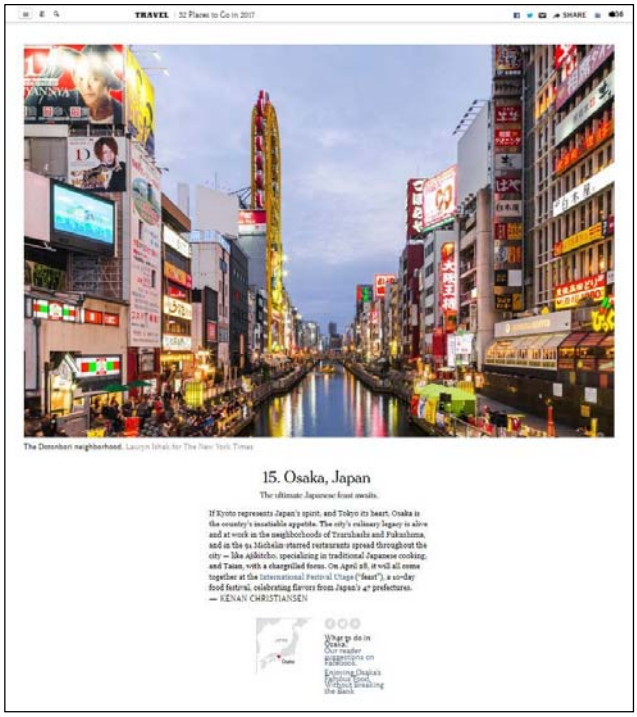
3. 民間利活用、河川空間利活用

民間と行政の関係（大阪）

ニューヨークタイムズの「今年行くべき世界の場所2017」52箇所の中に大阪が選ばれた写真が通天閣や大阪城ではなくて道頓堀。
そのようなところの担当は非常に誇り。ブランディング、地域の人との連携を考えれば、収支だけではかれない部分があり、やっていてよかった。

南海電鉄

「もうからない事業にどれだけ注力するのか」というのは絶対経営陣にはあって、もちろん株主さんも当然、「それだけブランディングと頑張って、配当がもらえるのか」という話になってしまうと成り立たない。ある程度、やっぱり収益性求めたところはやらないと納得してもらえないところがある。



出典：「52 Places to Go in 2017」（ニューヨーク・タイムズHP）

河川空間の利活用に関する行政間の関係（新潟、岡崎）

いろいろ無茶振り言ってみたり、言われてみたり。いろいろけんかはしました。電話で言い合いになったりとかしましたけれども、結果は今こういう状態になって、いい関係を築けたのかなという風に思っている。

新潟市職員：Dさん

安全性の線を引くのが自分たちの仕事で、（利活用を）止めるのは仕事ではないと思っている。ただそこで安全と利用のバランスをどうとるのか、苦労している。

河川管理者（国）

実績主義でやっている。例えば、今回撤去時間が早くできれば、次回はタイミングをもっと遅くしてもいいよ、など。初めてだと慎重になるため、かなり安全めなのはわかっているが、事故が起こったときのためにそのような対応になる。
岡崎市さんにまとめていただいているので、それはすごくやりやすい。

河川管理者（愛知県）

まとめ①

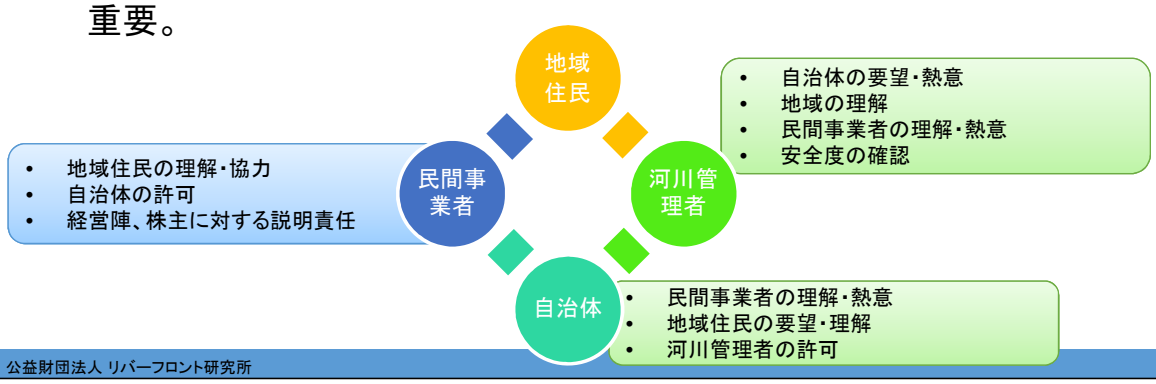
1. 背景・きっかけ

- 地域の社会的課題が背景となり、キーパーソンのモチベーションや公共的マインドにつながっている点は共通。
- 地域の活動の受け皿となる団体や活動が充実している点も共通。
- 課題が広く共有されていたり、活動実績がある場合、かわまちづくりも比較的スムーズに軌道に乗る可能性が高い。

2. 地域の合意形成、人とのつながり

- 密なコミュニケーションが地域の合意形成に功を奏している。
  - ・新潟：市の職員の仕事を超えた対応で反対派が応援団に。
  - ・岡崎：イベントにより、仲間意識が醸成
  - ・大阪：民間事業者が地域の調整役として機能し、活動を下支え。
    決して都会だからうまくいっているわけではない。
- 「必要以上のやりとり」→印象的なフレーズ。活動の輪を広げるには既存のネットワーク活用とともに熱心に話し合うことで相互理解と共感を図ることが有効。

まとめ②

3. 民間利活用、河川空間の利活用

- 民間事業者にとって、活動初期は公共マインドがモチベーションになるが、継続的な活動には収益性の確保や協力体制が必要。
  - ・経営陣や株主への説明責任。継続するための人的資源の確保必要。
  - ・民間に全て任せるということではなく、第三者の理解促進のためにも、行政側がしっかりサポートしている姿勢を示すことは重要。
  - ・組織内部への説明が必要な点は、行政側も同様。「敵は身内にいる」
- 河川空間の利活用について、実績をつみながら地域でルールを決定していくことは重要。実績がないから不可能ではなく、どうしたら可能かと考える河川管理者側のマインドも求められる。
  - ・関係者が本音で言い合える関係は共通。普段からのコミュニケーションが重要。